

予算特別委員会委員長報告（H29.3.27）

予算特別委員会に付託されました第1号議案、平成29年度一般会計予算について、審査の経過概要と結果を報告いたします。

我が国の地方財政を取り巻く環境は、依然として厳しく、とりわけ亀岡市の財政状況においては、

歳入では、一部に雇用情勢の改善が見られ、市民税の伸びが見られるものの、一般財源の大幅な増収を見込むことはできない状況にあります。

歳出では、少子高齢化による扶助費の増加が依然として続き、公債費も高止まりの状況が続くことが予想され、今後においても、財源不足が生じる見込みとなっています。

これらを鑑^{かんが}みると、総じて予断^{よだん}を許さない大変厳しい状況にあることに変わりなく、健全財政を維持していくには、今後いっそうの事業の取捨選択^{しゅしやせんたく}が急務^{きゅうむ}であることは明らかであります。

このような中、本市においては、新たな亀岡のまちづくりを目指す、第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画を、よりいっそう具現化^{ぐげんか}するための、平成29年度亀岡市一般会計予算案が提案されました。

これを受け、予算特別委員会は、3月14日から6日間にわたる日程で、真に市民のための効果的な予算であるかを第一に考え、予算の議決権は議会の権限で、最も重要であるとの認識のもと、多岐にわたり、積極的かつ慎重に審査を行いました。

執行機関から順次説明を受けるとともに、本市の最重点課題である京都スタジアム（仮称）に係る内容については、プロジェクトチームに説明を求めました。

審査では終始活発な質疑を行い、なお疑義^{ぎぎ}のある項目、掘り下げ調査すべき項目、議案の賛否に影響する項目について、委員間討議を行い、論点を整理する中で、議論を深めていきました。

17日には、各部・室等の説明による審査をすべて終了し、21日には、平成29年度の重点事業としても位置付けられている、「雲海テラス」及び「森のステーションかめおか」について、現地視察を行い、担当部等からの説明を受け、詳細に調査を行いました。

3月22日には、各委員間討議から抽出した項目をさらに精査した9項目について、市長をはじめ、執行機関の出席を求め、質疑項目に対する考え方等について、たしました。

その主な内容は、

- ・京都学園大学をはじめとした、大学との連携を進める、官学共同研究等の委託事業の方向性や考え方について
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた「かめおか霧の芸術祭（仮称）」における、事業の進め方について
- ・セーフコミュニティやインターナショナルセーフスクールを市内に浸透させる方策について

きゅうけいしゃち
・急傾斜地に立地する別院保育所の今後の方向性について

・関係 5 市町及び京都府で設立する「森の京都DMO」による観光推進の取組みや、「森のステーションかめおか」の事業運営のあり方について

・「亀岡まるごとガーデンミュージアム構想」により、今後の維持経費等の増大が見込まれる中、事業目的とその費用対効果について

・学校再編に向けた関連予算計上に係り、学校規模適正化の進め方について

・京都スタジアム（仮称）の経済効果や事業効果、また、長期的な財政見通しや用地の妥当性について

・京都・亀岡保津川公園の今後の基本的な整備方針について

であります。

市長質疑の後には、再度委員間討議を行いました。ここで議論したのは、主に京都スタジアム（仮称）関連事業経費に係る財政状況及び、学校規模適正化に係る進め方についてでありました。

まず、京都スタジアム（仮称）関連事業経費に係る財政状況について、主な内容は

- ・「この事業実施により、将来的な財源不足が見込まれ、福祉や教育予算への影響があるのではないか」
- ・「市の財政状況は厳しさを増すが、スタジアム予算を計上しない決定をした場合に、及ぼす影響を考慮すべきである」
- ・「スタジアムに係るすべての状況が明らかになっていない段階で、拙速^{せっそく}に予算計上すべきなのか」
- ・「財政状況は問題ないとの答弁を得ており、これを信用しつつ、執行については慎重にあるべきである」とする意見がありました。

また、学校規模適正化に係る進め方について、主な内容は

- ・「地域の理解のもと進めていくべきであり、さらに丁寧な説明が求められているのではないか」
- ・「市長質疑において、慎重に対応していくという答弁もあり、今後もしっかりと推移をみていくべきである」とする意見がありました。

その後、討論に入り、「本市の歳入不足が予測される中、駅北の土地区画整理事業用地を京都スタジアム（仮称）建設用地として購入することは問題が多い」とした反対討論がありました。

また、「京都スタジアム（仮称）については、亀岡の未来を照らす希望ある事業として予算計上されている」、「選ばれるまち、住み続けたいまちを目指し、子どもたちの夢や希望を叶え、にぎわい^{かな}を創出する予算である」、「地方創生交付金等を活用し、子育て支援や教育環境の充実に取組むための、積極的な予算である」などの賛成討論がありました。

討論の後には、採決を行い、採決の結果は賛成多数をもって、原案可決すべきものと決定しました。

なお、指摘要望事項として

- ・別院保育所の耐震工事に係り、近年の異常気象の状況を十分考慮し、災害時等の対応については、児童の安全を第一とすること

- ・学校規模適正化については、地域の意見を十分に聴き、慎重に進めること
 - ・京都スタジアム（仮称）関連事業経費に係る土地購入については、公共事業評価に係る第三者委員会及び環境保全専門家会議の判断を待ち事業執行すること
- 以上３点を指摘要望するものであります。

平成２９年度は、亀岡市にとって、将来のまちづくりの方向性を左右する、大きな節目の年となります。また、今年は私たち第１６期議員にとりましては、任期折り返しの年でもあります。

前段でも述べた通り、持続可能な財政を運営し続けるには、事業を積み上げるだけでなく、事業の見直しは必須であります。市議会としては、このことを常に意識し、二元代表制としての役割をいっそう発揮して、市民の^{ふたく}負託に^{ひっす}応えていかなければならないと考えるところであります。

今後も、市民福祉の向上のため、そして未来ある子どもたちのためにも、亀岡の将来のあるべき姿をしっかりと見据え、さまざまな課題について議論を尽くし、全力で取り組んでいくことを、ここで改めて決意し、予算特別委員会の審査結果の報告とします。